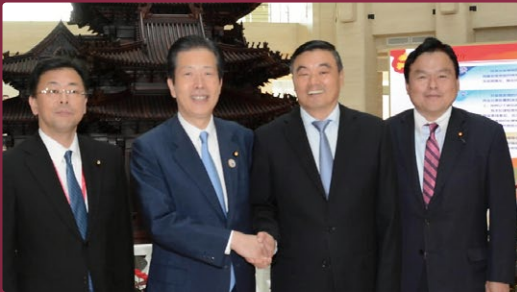


衆議院議員

赤羽かずよし

公約実現へ！ 一步前進

皆様の平素からのご支援に心より感謝申し上げます。
先の国会では安全なまちづくりを目指した「空き家対策法」「土砂災害防止法」「改正水防法」「建築物のエネルギー消費性能向上法」の成立に取り組み、中小企業や小売商店街に追い風となるプレミアム商品券の実施や「中小企業需要創生法」を制定しました。
また、来年度の予算や税制改正に現場の声を反映するため各種団体からヒアリングを精力的に行うとともに、自由民主党との間で軽減税率の導入について詰めの作業を進めています。
皆様のご理解とご支援を重ねてお願い申し上げます。



中国・国家開発銀行の胡懐邦会長の歓迎を受ける公明党訪中団

ウェブサイト <https://www.akaba-now.com>
Facebook <https://www.facebook.com/akabakazuyoshi>
Twitter @AKBhyogo2ku



唐家璇中日友好協会会長（元外相）と率直な意見交換。



中国人民抗日戦争記念館にて献花。平和不戦を誓う。



神戸の長年の懸案である高速湾岸道路の延伸につき、石井新国交相に早期着工の要望を行なう。



神戸ビーフの流通を担う西部市場神戸中央畜産荷受（株）設立50周年記念式典。

わが国を取り巻く安全保障環境の変化の下で、万が一の不測の事態に巻き込まれぬために、わが国の安全保障法制の隙間を埋める「平和安全法案」は、過去最長の116時間に及び審議の末、野党3党と修正合意を経た上で成立致しました。今後も地元の皆様とに平和安全法制について丁寧なご説明を続けて参ります。
平和の構築には「対話外交の努力」が最重要です。公明党は、通常国会終了後、矢継ぎ早に訪韓団と訪中団を派遣。韓国の大統領、中国の習近平国家主席との会談を行いました。私も訪中団の副団長として北京を訪問。安倍総理の親書を携えて、習近平国家主席、劉雲山常務委員等々の要人に首脳会談の早期開催を強く求めるなど率直な外交対話をを行い、その結果、この11月1日に日中韓首脳会談が実現したことは皆様ご存じの通りです。
今回の訪中が、日中関係の改善に向けての流れを、より一層確実なものとする大きな役割を果たすことが出来たものと確信いたします。



平和安全法制について、パワポイント駆使しての国政報告会を開催。

環太平洋連携協定（TPP）が、日本や米国など太平洋を取り囲む12か国で大筋合意され、日本が関税を設けている834品目のうち、約440品目で関税を撤廃されることになり、日本製品の国際競争力の強化が期待されます。取り組み次第で日本経済に莫大なメリットをもたらします。
全国の中小企業にとってTPPはピンチでなくチャンスととらえ、海外市場に活路を見出そうとする中小企業を支援し、「新規海外展開1万社」という日本再興戦略の目標達成につなげて参ります。
また、影響を受ける農林水産業の支援策を大胆に行い、海外に輸出ができる強い農林水産業を目指し、全国各地での農商工連携による新事業・新ブランド創出を進めて参ります。

平和外交を推進

TPPは飛躍のチャンス

新人・伊藤たかえさんを公認

神戸創生・兵庫創生のために何より大切なこと——それは私たちの声をさらに国政に届けることです。明年7月の参院選挙から兵庫県選挙区の定数が増えることになり、公明党は11月5日、これまで17年間、人権派弁護士として活躍されてきた伊藤たかえさんを公認候補として決定いたしました。即戦力の伊藤たかえさんと共に兵庫創生のために一層力を尽くして参ります。何卒ご指導のほど宜しくお願い申し上げます。



参議院兵庫選挙区の公認発表をする伊藤たかえさんと赤羽一嘉=11月5日兵庫県政記者クラブにて

赤羽かずよし × 伊藤たかえ

対 談

兵庫から、「希望の未来」をつなぐ、築く！

阪神・淡路大震災から21年——。自ら被災しながら復興に取り組み、その後、被災者の生活再建へ画期的な法改正を成し遂げた赤羽一嘉衆議院議員と、被災地から立ち上がり法曹の道歩んできた、伊藤たかえさん。兵庫の未来について熱く語り合いました。

赤羽 一嘉

前経済産業・内閣府副大臣、元財務副大臣。
公明党兵庫県本部代表。
衆議院議員。
三井物産勤務を経て、衆院当選7回。
慶應義塾大学法学部卒。57歳。

伊藤たかえ

公明党女性局次長。弁護士、税理士。
大阪弁護士会人権擁護委員会副委員長。
NPO法人「建築問題研究会」元理事長。
兵庫県尼崎市生まれ、宝塚市在住。
関西大学法学部卒。47歳。

原点は、阪神・淡路大震災

赤羽一嘉 阪神・淡路大震災から21年が経ちました。私は当時、衆議院議員1年生。私にとって、その後の政治家としての生き方を決定づけた大惨事でした。伊藤さんも宝塚の自宅で被災されたんですね。

伊藤たかえ 当時、私は司法浪人生でした。壊滅した街を前に、「こんな時に勉強なんか……」と悩む中、「こんな時だからこそ合格して欲しい」と励ましてくださったのは、被災した地域の方々でした。「絶対に裏切れない」という感謝の思いが原動力になり、その年に司法試験に合格することができました。

赤羽 文字通り「被災地が生んだ弁護士」ですね。

伊藤 あの時の感謝が、「一人のために悩む弁護士に」という誓いになりました。政治の道に進もうとする今も、その思いは変わりません。赤羽さんは、自宅の再建を公費で応援する「被災者生活再建支援法」の改正を13年かけて実現されました。その執念は、まさに、一人に寄り添う政治の体現だと感じます。

赤羽 ありがとうございます。苦境にある人を支えるために政治はある。被災地選出の議員として法改正は悲願でした。嬉しいことに、東日本大震災では約20万世帯の被災者が生活再建

支援金を受給することができ、多くの方々から感謝のお便りを頂戴しました。「一人のために」は、今も日本の政治にとってもっとも重要なキーワードだと思います。17年間の弁護士活動の中で、実感されたことも同じではありませんか。

広がる貧困問題の克服へ

伊藤 弁護士として、離婚や借金、家庭内暴力、経営難など深刻な悩みを持つ人々と向き合ってきました。それに加えて、大事にしていた活動が、ホームレス支援です。

赤羽 貧困問題は深刻です。まさに、一人一人抱えている事情が違う。

伊藤 そうですね。実際に河川敷を回り、時にテントの中で、お話を膝詰めで伺ってきました。やむなく路上生活をしている人がほとんどです。それだけに「もっと支える制度があれば。支援につなぐ体制を強化できれば」。そんな思いが募るばかりです。

赤羽 一人親家庭や、女性、子ども、高齢者の貧困。これは日本全体に横たわる課題です。現場を歩いてきた伊藤さんとタッグを組み、解決へ前進していきたいと思います。今、政府・与党が進める地方創生も、「人」に光を当てていくことが重要だと考えるからです。

未来の兵庫へ。つなぐ、チカラ。

伊藤 兵庫県は、地域性も文化の面でも「日本の縮図」といわれるほど、多様性に富んでいます。

赤羽 都市部もあり、中山間地もある。また日本海にも、瀬戸内海にも面しています。それだけに全国的な課題も当然ありますが、それは同時に、大きな可能性を秘めているということです。

伊藤 赤羽さんは、有馬温泉や淡路島のクルーズ、姫路城などの観光振興や、神戸ビーフや神戸シューズ等の地元産品のブランド化、スーパーコンピュータ「京」や国際医療産業クラスターの誘致、そして、国際戦略港湾としての神戸港の復活など地域力の向上に奮闘されています。私も、兵庫県の魅力、底力を発揮していく取り組みに全力を挙げたいと決意しています。

赤羽 地域の底力とは、人の底力です。兵庫県は、阪神・淡路大震災からも、人の絆の力で立ち上がってきました。力を合わせて、頑張りましょう！

伊藤 はい！ 兵庫から希望の未来を築くため、「もっと『人』に焦点を」と、全力で走り抜いてまいります。

